

経済学部A方式Ⅱ日程・社会学部A方式Ⅱ日程
スポーツ健康学部A方式

3 限 選 択 科 目 (60分)

科 目	ページ	科 目	ページ
政治・経済	2～19	日 本 史	20～34
世 界 史	36～55	地 理	56～63
数 学	64～65		

〈注意事項〉

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないこと。
2. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
3. 試験開始後の科目の変更は認めない。
4. 数学は以下の注意事項に従うこと。
 - ・解答用紙の所定の欄に受験学部を○で囲むこと。
 - ・解答を導く途中経過も書くこと。
 - ・解答はおもて面と裏面の所定の欄に記入すること。
 - ・その他、解答用紙に記載された指示にしたがい解答すること(この指示どおりでない場合は採点の対象としない)。
 - ・定規、コンパス、電卓の使用は認めない。
5. マークシート解答方法については以下の注意事項を読みなさい。

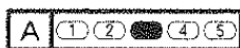
マークシート解答方法についての注意

マークシート解答では、鉛筆でマークしたものを機械が直接読みとって採点する。したがって解答はHBの黒鉛筆でマークすること(万年筆、ボールペン、シャープペンシルなどを使用しないこと)。

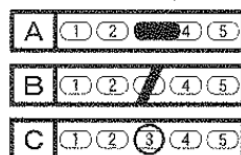
記入上の注意

1. 記入例 解答を3にマークする場合。

(1) 正しいマークの例



(2) 悪いマークの例



枠外にはみださないこと。

○でかこまないこと。

2. 解答を訂正する場合は、消しゴムでよく消してから、あらためてマークすること。
3. 解答用紙をよごしたり、折りまげたりしないこと。
4. 問題に指定された数よりも多くマークしないこと。

(世界史)

〔 I 〕 次の文章を読み、以下の問いに答えよ。

古代の地中海世界では、フェニキア人やギリシア人による植民活動が活発に行われた。

フェニキア人は、 やティルスなどの都市国家を拠点に紀元前12世紀頃から地中海貿易で繁栄した。ティルスは紀元前9世紀に北アフリカにカルタゴを建設し、さらにはヒスパニア方面にも勢力を広げていった。その後、本拠地の東地中海沿岸は、紀元前7世紀に ，次に、この を滅ぼした新バビロニアによって、さらにはアケメネス朝ペルシアによって支配されたが、フェニキア人の海上での活動の優位は続いた。カルタゴは、地中海を挟んだ東方にあるシチリアに勢力を広げようとしたため、すでにシチリアに植民していたギリシアと対立した。また、紀元前4世紀にはアレクサンドロス大王によってティルスが破壊された。こうして東地中海での支配権を失ったフェニキア人は、以降、カルタゴに本拠地を移し、イベリア半島の地中海沿いにも植民市を建設した。

一方、ギリシア人は、紀元前8世紀頃からエーゲ海を隔てたアナトリア半島(B) (小アジア)西岸イオニア地方に植民市を築き、さらには地中海の西方、現在のシチリア、イタリア、南フランス方面にも進出した。イオニア地方の植民市であったミレトス(C) は特に繁栄し、黒海沿岸の植民市の母都市となった。

しかし、紀元前7世紀になると、イオニア地方の植民市は小アジアに興ってくる異民族の勢力に服従することを余儀なくされた。まずは、鑄造貨幣を使用し商業が盛んであった によって、次には、紀元前546年にこの を滅ぼしたアケメネス朝ペルシアによって征服された。アケメネス朝ペルシアは各植民市に僭主を配置して干渉したので、これに反発した植民市は紀元前500年にミレトスを中心に反乱を起こしたがすぐに鎮圧された。特にミレトスはペルシア軍によって破壊され、住民は迫害された。さらに、ペルシア軍はこのイオニア植民市の反乱を支援したアテネがあるギリシア本土に侵攻したので、ペルシア戦(D)

争が起こった。3次に渡るペルシア軍の侵攻に対し、ギリシア側はいくつかのポリスが連合して撃退した。

だが、この後、ギリシアではポリス同士が覇権を争って絶え間ない戦争が生じるようになった。このギリシアに勢力を伸ばし、アテネ・テーベ連合軍を②の戦いで撃破し、全ギリシアを制圧してう同盟の盟主となったのがマケドニアのえであった。そして、えの息子のアレクサンドロス大王は、東方遠征によってアケメネス朝ペルシアを滅ぼし、地中海東部はギリシアからエジプトまで一つの帝国の支配下に入った。しかし、アレクサンドロス大王の死後、彼の後継者を意味するお達の間で戦争が起こり、その結果、この帝国は、諸王国に分裂した。

一方、アレクサンドロス大王が東方に向かって進軍していった頃に、ギリシア以西の地中海では都市国家ローマが勢力を拡大していた。他のラテン人やエトルリア人の地域、そして南部のギリシア人の植民市を相次いで征服し、紀元前3世紀前半には全イタリア半島を支配するようになった。ローマはさらにシチリア方面に勢力を拡大しようとしたので、すでにそこに進出していたカルタゴの勢力と衝突することとなった。ポエニ戦争でカルタゴによりやく勝利した後、ローマは地中海東方に進出し、紀元前2世紀半ばにギリシアとマケドニアを支配するようになった。さらに、エジプトのプトレマイオス朝を滅ぼし、こうして地中海は「ローマの内海」となった。

問1 空欄 あ ～ お にもっとも適した語を解答欄に記入せよ。

世界史

問2 空欄 ～ にもっとも適した地名を以下の語群から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | | | | | |
|---|--------|---|---------|---|---------|
| a | アクティウム | b | アルベラ | c | イッソス |
| d | イプソス | e | カイロネイア | f | シドン |
| g | ダマスクス | h | ナウクラティス | i | ニハーヴァンド |
| j | プレヴェザ | | | | |

問3 下線部(A)に関して、次のア～オのうち、説明として間違っているものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア シチリアには、都市国家テーベが植民市シラクサを建設した。
- イ 古代のシチリア島は地中海有数の穀物生産地であり、地中海交易の要所でもあった。
- ウ 浮体の原理や艇子の原理を発見した数学・物理学者であるアルキメデスは、シチリアのシラクサ出身であった。
- エ シチリアでは紀元前2世紀後半から前1世紀前半に二度にわたって奴隷が大規模な反乱を起こした。
- オ カルタゴ人は、シチリアの北西に位置するサルデーニャに進出し、植民市を建設した。

問4 下線部(B)に関して、以下の現代の都市のうち、その発祥がギリシア人の植民と関係のないものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | | | | | |
|---|-------|---|--------|---|-------|
| a | マルセイユ | b | イスタンブル | c | ジェノヴァ |
| d | タラント | e | ナポリ | f | ニース |

問5 下線部(C)を中心としてイオニア植民市では自然哲学が発展したが、その中で、万物は流転しその根源は火であると考えた人物を以下の語群から一名選び、その記号をマークせよ。

- | | | | | | |
|---|----------|---|---------|---|---------|
| a | アリストタルコス | b | アリストテレス | c | エウクレイデス |
| d | エピクロス | e | エラトステネス | f | ゼノン |
| g | タレース | h | プロタゴラス | i | ヘラクレイトス |

問6 下線部(D)に関して、次のア～オのうち、説明として間違っているものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア この戦争を主題にヘロドトスは『歴史』を著した。
- イ ペルシア軍の侵攻を阻止しようとしたレオニダス王が率いるスパルタ軍は、プラタイア(プラテーエ)の戦いで全滅した。
- ウ アテネ北東のマラトンに上陸したペルシア軍を、ミルティアデス率いるアテネ重装歩兵軍が撃退した。
- エ テミстокレスはサラミスの海戦でペルシア艦隊を破ったが、後にオストラシズムによって国外退去となりペルシアに亡命した。
- オ この戦争での勝利を確かなものとしたギリシアでは、紀元前470年代に、ペルシアの再攻に備えて、アテネを中心にデロス同盟が結成された。

世界史

問7 下線部(E)に関して、次のア～オのうち、説明として間違っているものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア ペロポネソス同盟はスパルタを盟主とし、ペロポネソス戦争時にスパルタはアケメネス朝ペルシアから援助を受けた。
- イ コリントスは、スパルタとともにペロポネソス同盟の中心となり、商業と植民活動で繁栄したが、後にローマ軍によって破壊された。
- ウ テーベは紀元前371年にレウクトラの戦いでスパルタ軍に勝利し、一時ギリシアの覇権を握った。
- エ スパルタではペリオイコイという隷属農民が完全市民に共有されていた。彼らの起源はドーリア人が侵入してきたときに征服された人々であり、しばしば反乱を起こした。
- オ アテネではペリクレスが提案して成立した市民権法によって、市民資格は両親ともに市民身分の者に限られることとなった。

問8 下線部(F)に関連した次の説明文中の空欄 ① ~ ⑧ にもっとも適した語を以下の語群から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

紀元前4世紀末～前3世紀前半に、エジプト、シリア、マケドニアをそれぞれ支配する三王国が建国された。プトレマイオスはエジプトで、① はマケドニアで新王朝を開始した。また、小アジアからインダス川にいたるまでの広大な西アジアの領域は ② が建国したシリア王国によって支配された。この地域では、紀元前3世紀頃カスピ海東南に ③ に率いられたイラン系遊牧民族の国家である ④ が形成され、紀元前2世紀以降に強大化してメソポタミア地方にまで進出し、シリア王国がローマの ⑤ に滅ぼされた後もローマと争った。スパルタクスの反乱を鎮圧した ⑥ はこの ④ 遠征で戦死している。また、シリア王国西方では、紀元前3世紀に入ると、アナトリア半島西部でアッタロス朝の都である ⑦ が ⑧ 文化の拠点として繁栄した。

- | | | |
|------------|-----------|------------|
| a アルサケス | b アンティゴノス | c アントニウス |
| d イスラーム | e エトルリア | f エフタル |
| g オクタヴィアヌス | h カエサル | i クラッスス |
| j シャープール1世 | k セレウコス1世 | l バクトリア |
| m パルティア | n パルミラ | o ビザンツ |
| p ブルートゥス | q ペルガモン | r ペルシア |
| s ヘレニズム | t ホスロー1世 | u ホラズム |
| v ポンペイウス | w マリウス | x ミトラダテス1世 |
| y メディア | z レピドゥス | |

世界史

問9 下線部(G)に関して、次のア～オのうち、説明として間違っているものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア ローマでは、獲得した占領地の多くを公有地とし、それを市民に占有させたが、奴隷などの労働力や資力に恵まれた富裕市民が大規模にそれらの土地を占有したので、ラティフンディアが形成された。

イ イタリア半島征服の過程で、ローマはたくみな分割統治を行ない、同盟市の市民にはローマ市民権を認めた。

ウ イタリア半島以外のローマの征服地で、ローマから派遣された総督によって統治された地域を属州という。最初の属州となったのはシチリアである。

エ 紀元前287年に制定されたホルテンシウス法によって、平民会での決議は元老院の承認がなくとも国法とされることになった。

オ ローマ軍の主力を担ってきた中小土地所有農民が没落し軍事力が低下したため、マリウスは無産市民の志願兵を集めて軍団を組織するという軍制改革を行った。

問10 下線部(H)に関して、次のア～オのうち、説明として間違っているものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 第一回ポエニ戦争は、シチリアが舞台となり、カルタゴは敗れた。

イ ハンニバルは、大軍を率いてアフリカ北岸のカルタゴ本土を出発し、冬のアルプスを越えてイタリア半島に入り、カンネーでローマ軍に勝利した。

ウ 大スキピオはシチリアから北アフリカに渡り、カルタゴ本土を攻撃した。

エ カルタゴ南西部のザマの戦いで、大スキピオはハンニバル軍を大敗させ、第二回ポエニ戦争はローマ軍が最終的に勝利した。

オ 小スキピオが率いる軍隊はカルタゴを包囲し、完全に町を破壊した。この結果、カルタゴは消滅し、その地はローマのアフリカ属州となった。

問11 下線部(I)に関連した次の説明文中の空欄 ① ~ ⑦ にもっとも適した語を以下の語群から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

エジプトは、中王国の衰退後に ① の支配を受けたことはあるが、その支配を破って樹立された新王国の時代にはシリアにまで勢力を拡大し、紀元前13世紀にはシリアの支配をめぐって ② と衝突した。紀元前7世紀前半には、アッシリアに征服されたが、その強圧的支配に抵抗して独立を回復した。しかし、紀元前6世紀後半に ③ によってアケメネス朝ペルシアに併合された。その後、アレクサンドロス大王の征服とその後を引き継いだプトレマイオス朝によって、アレクサンドリアを中心にヘレニズム文化が広がった。

ローマ帝国、そして東西分裂後の東ローマ帝国の支配下でもエジプトは依然として重要な属州だったが、イスラームの第二代カリフ ④ によって、エジプトはイラク、シリアとともに征服されたため、アラブ化とイスラーム化が進んだ。その後、7世紀の半ばからは ⑤ 朝、次に8世紀後半からは ⑥ 朝によって統治され、イスラーム帝国分裂後は、チュニジアにおこった ⑦ 朝によってエジプトは征服され、新都カイロが建設された。

- | | | |
|-----------|------------|------------|
| a アイユーブ | b アウラングゼーブ | c アクバル |
| d アッバース | e アッバース1世 | f イスマール1世 |
| g ウマイヤ | h ウマル | i カンビュセス2世 |
| j キュロス2世 | k 後ウマイヤ | l サファヴィー |
| m サラディン | n シャープール1世 | o セルジューク |
| p ダレイオス1世 | q ナスル | r ヒクソス |
| s ヒッタイト | t ファーティマ | u ブワイフ |
| v ホスロー1世 | w マムルーク | x ミタンニ |
| y ムラービト | z メフメト2世 | |

世界史

〔Ⅱ〕 次の文章を読み、以下の問いに答えよ。

12世紀のフランスでは、10世紀からはじまったカペー朝^(a)で中央集権化が推進され、歴代の国王は着実にその権力を強めていった。この頃、キリスト教の異端で、マニ教の影響を受けた [1] 派が西欧で広がり、南フランスの貴族たちに支持されて [2] 派を形成していたが、1226年から王位についた [A] は [2] 派を弾圧して、王領地を南フランスにも拡大し、王権を伸張させた。だが、 [A] による討伐の以前から [2] 派を異端とみなし、撲滅を掲げて十字軍を企てたのは教皇 [B] であった。 [B] によって、教皇権は絶頂期を迎え、この人物が残した「教皇は太陽であり、皇帝は月である」という言葉は、世俗権力に対する教皇権の優位を誇示したものとして知られる。

13世紀末には、王権の強化を狙う国王が、国家に対する教会の優位性を主張する教皇と対立するようになった。1285年から国王となり、いっそうの集権化を目指す [C] は聖職者への課税を決め、それに反対する教皇 [D] と衝突した。 [C] は国内勢力を味方につけるために、 [ア] 年に [3] を招集した。これによって、フランスでは身分制議会が^(c)はじまった。 [3] での支持を得た [C] は、1303年に自らの法律顧問ノガレらを通じてローマ近傍の [4] で [D] を捕え、監禁した。これは [4] 事件と呼ばれ、教皇権力の没落を象徴する出来事となった。 [C] は、 [イ] 年に教皇庁をフランス南東部のアヴィニョンに移すことをフランス出身の教皇 [E] に要請し、教皇 [E] はこれを受け入れてその地に遷居した。フランス王の監視下におかれた教皇の状態は、ユダ王国の住民の^(d)故事になぞらえて「教皇の [5] 捕囚」と呼ばれた。

この状態は [ウ] 年まで続き、グレゴリウス11世によって教皇庁はローマへ戻された。しかし、グレゴリウス11世に続く新しいイタリア人の教皇が選出されると、アヴィニョンでもフランス人の枢機卿が別の教皇を後押しし、双方が正当性を主張したので、これによっていわゆる [6] が起こった。フランス、イタリア、ドイツなどの諸侯も支持する教皇をめぐって分裂し、教皇の権威は完全に失墜した。

教皇庁と教会の秩序も失われた。教会の腐敗や墮落を前にして、各地で改革を求める運動が広がった。教会側はカトリックの教えに背く行為を異端とみなして、こうした動きに厳しい態度で臨んだ。この混乱を收拾するために、神聖ローマ皇帝ジギスムントの提唱で 公会議が開催された。これによって、^(e) 年に は終わったが、教皇がかつての権力を取り戻すことはなく、改革の気運はさらに高まった。それは、のちの宗教改革へとつながっていった。

このような教皇権力の衰退の一方で、王権の伸長に伴う武力対立が生じた。フランス王国ではカペー朝が断絶し、1328年にヴァロワ朝の が王位を継承したが、これに対して の娘を母とするイギリス国王エドワード3世は王位継承権を主張し、 年に百年戦争が勃発した。はじめはイギリス軍が優勢で、フランス軍は国内事情も影響し、敗北寸前に追い込まれた。しかし、^(f) フランス軍は、次第に攻勢に転じた。最終的に 年にフランス軍が勝利し、^(g) 戦争は終結した。この長期にわたる戦争によって、フランス国内の領主や騎士は没落し、国王は勢いを強め、中央集権化はいっそう進んだ。

問1 空欄 ~ にもっとも適切なものを以下の語群から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | | |
|----------|-----------|----------|
| a アッシジ | b アナーニ | c アルビジョワ |
| d イエルサレム | e カタリ | f カノッサ |
| g クレルモン | h コンスタンツ | i 三部会 |
| j 大空位時代 | k 大シスマ | l 二院制議会 |
| m バビロン | n マグナ=カルタ | o 模範議会 |
| p ラテラノ | | |

世界史

問2 空欄 ～ にもっとも適切なものを以下の語群から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | |
|---------------|------------|
| a インノケンティウス3世 | b グレゴリウス7世 |
| c クレメンス5世 | d シャルル4世 |
| e フィリップ4世 | f フィリップ6世 |
| g ボニファティウス8世 | h ルイ9世 |
| i ルイ13世 | j レオ3世 |
| k レオ10世 | l レオポルド2世 |

問3 空欄 ～ にもっとも適切なものを以下の語群から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | | | | |
|--------|--------|--------|--------|--------|
| a 1300 | b 1302 | c 1304 | d 1309 | e 1339 |
| f 1377 | g 1412 | h 1414 | i 1415 | j 1417 |
| k 1432 | l 1445 | m 1453 | n 1454 | |

問4 下線部(a)に関して、次のa～eのうち、説明として間違っているものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a 987年から1328年まで続いた王朝であった。
- b 王朝を開いたのはユーグ＝カペーであった。
- c 首都はパリであった。
- d 13世紀に国王はナポリ王国の継承権を主張し、イタリアに侵入した。
- e 没収したテンプル騎士団の財産によって王権はいっそう強化された。

問5 下線部(b)に関して、次の a～e のうち、説明として間違っているものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a ゾロアスター教に仏教・キリスト教の要素を融合した宗教である。
- b 創始者はササン朝の迫害を受けた。
- c 中国では祆教と呼ばれた。
- d 北アフリカ、中央アジアで広まった。
- e 徹底した善悪二元論を特徴とする。

問6 下線部(c)に関して、次の a～e のうち、説明として間違っているものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a 王、貴族、市民の代表によって構成された。
- b 1615年以降召集されず、1789年にヴェルサイユで再び召集された。
- c 新規課税の審議権を有した。
- d 再召集された議会では、身分別議決法に反対した第三身分代表が分離して、国民議会を結成した。
- e 身分別選挙で議員を選出した。

問7 下線部(d)に関して、次の a～e のうち、説明として間違っているものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a 紀元前586年から紀元前538年に起きた。
- b ネブカドネザル2世がユダ王国を滅亡させ、その住民の多くを自国の首都に強制移住させた。
- c ユダ王国の住民は民族的な苦難を経験する中でヤハウエ信仰を守った。
- d 強制移住させられた人々はカンビュセス2世によって解放された。
- e ユダヤ教にメソポタミアの伝説が取り入れられるきっかけとなった。

世界史

問8 下線部(e)に関して、次のa～eのうち、説明として間違っているものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a 彼は神聖ローマ皇帝になる前からハンガリー王でもあった。
- b 彼が提唱した公会議は、フスを異端として焚刑に処した。
- c フスの処刑後、フス派のベーメン住民がフス戦争を起こしたが、皇帝軍によりすぐに鎮圧された。
- d ニコポリスの戦いで、バルカン諸国・フランス・イギリス・ドイツのキリスト教連合軍を率いた。
- e ニコポリスの戦いでバヤジット1世率いるオスマン帝国軍に破れた。

問9 下線部(f)に関して、次のa～eのうち、説明として間違っているものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a イギリス軍は長弓隊の活躍によってクレシーの戦いで大勝した。
- b イギリス軍はポワティエの戦いでフランスのジャン2世を捕えた。
- c エドワード3世の長子であったエドワード黒太子の活躍により、イギリス軍はフランス南西部を奪った。
- d 「アダムが耕しイヴが紡いだとき、だれが貴族であったか」と唱えるジョン=ボールの指導によって、北フランスでジャックリーの乱が起きた。
- e 当時のフランスでは黒死病が大流行し、人口減少が進んでいた。

問10 下線部(g)に関して、次の a～e のうち、説明として間違っているものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a ジャンヌ＝ダルクは軍を率いてイギリス軍の包囲を破り、オルレアンを解放した。
- b 敗勢を挽回したフランス軍はクレシーを除く全国土からイギリス軍を駆逐した。
- c 百年戦争終結後、シャルル7世は常備軍を設置した。
- d 敗れたイギリスでは、まもなく王位継承をめぐる戦争が起こった。
- e ジャック＝クールはシャルル7世に資金援助し、財務官となった。

世界史

〔Ⅲ〕 次の文章を読み、以下の問いに答えよ。

近代の東アジアは植民地支配と侵略戦争によって大きな変動を被った。しかし、第二次世界大戦における日本の敗戦によってその帝国が解体されると、東アジアは植民地支配からの脱却と冷戦の展開、国際秩序の再編をめぐって、新たな激動の時代へと突入した。

連合国側の戦後の対日方針は 年11月のカイロ会談で明確化され、12月1日にカイロ宣言が発表された。この宣言において日本の植民地支配からの独立が約束された朝鮮では、日本の敗戦直後から朝鮮各地で建国準備委員会が組織され、1945年9月には の樹立が宣言された。しかし、北緯38度線を境界に、暫定的な米ソ両軍による朝鮮の南北分割占領を発表したアメリカは を承認せず、朝鮮南部に対して抑圧的な占領統治を行ない、その中で は解体に追い込まれていった。1945年12月に分割占領の停止と米英ソ中の四カ国による信託統治が協定されたが、その方針は実行されることはなく、とりわけアメリカ占領下の南朝鮮では中道・左派主導の朝鮮人の建国運動への弾圧が強まっていった。1948年になると、朝鮮の南北分断も決定的となり、8月には を大統領とする大韓民国が、9月には朝鮮民主主義人民共和国が成立した。

同じく日本の植民地であった台湾は、カイロ宣言で中華民国に組み込まれることになった。中国は大戦中に米英との不平等条約が撤廃され、戦後、国連の常任理事国である五大国の地位を得ることになったが、国内では国共内戦の危機が再燃した。1945年10月、国民党と共産党の間に、国内和平・内戦回避などに合意した が結ばれ、1946年1月アメリカ特使マーシャルの仲介で停戦協定が成立したが、その後国民党が破棄して内戦が始まった。国民党軍は農民の強い支持を得た共産党に敗退を重ね、1949年10月、毛沢東を主席、周恩来を首相とする中華人民共和国が成立し、12月、蒋介石は台湾に逃れ、そこで中華民国政府を維持することになったのである。⁽¹⁾

東アジアでの本格的な冷戦の展開は、ついに「熱い戦争」へと帰結した。舞台は朝鮮半島であった。1950年6月朝鮮民主主義人民共和国軍(以下「共和国軍」)が境

界線を越えて侵攻し、朝鮮半島南部にまで至ると、国連安全保障理事会は大韓民国支援のため国連軍を派遣した。国連軍は共和国軍を中国国境近くまで追撃したため、中国は共和国側を支援して人民義勇軍を派遣した。その後、38度戦での攻防の末、年7月朝鮮休戦協定が成立したが、南北分断は固定化され⁽²⁾たまま21世紀の現在にまで続いている。

「熱い戦争」に至る東アジア情勢には日本も大きく関係していた。アメリカの占領政策は、当初の民主化・平和化路線を、冷戦の進行とともに後退させ、1950年8月に朝鮮戦争の勃発を背景としてGHQの指令で武装組織であるが創設され、年9月には一部の国の不参加や反対のなか、サンフランシスコ講和会議で日本は講和条約に調印、同時に日米安全保障条約が結ばれた。その後、日本は年4月に中華民国との間に日華平和条約を締結し、年にはソ連と国交を回復、同年に国際連合に加盟するも、1970年代初めまではアメリカとともに中華人民共和国に対して距離を置いていた。

中華人民共和国の成立はソ連東欧諸国と, 西側諸国のなかではイギリスによって承認され、1950年2月、中華人民共和国はソ連と中ソ友好同盟相互援助条約を結んだ。1955年前後の第三世界の自立と連帯を目指す動きのなかでも、中華人民共和国は大きな役割を果たした。しかし、その後、チベット反乱でダライ=ラマがに亡命すると、国境紛争も含め、中国との関係は悪化していった。また、ソ連との関係も中ソ論争で悪化し、1969年3月の (ダマンスキー島)での軍事衝突では双方に多数の死傷者が発生した。中ソ対立は社会主義圏の分裂に深刻な影響をもたらしたのである。国内的にも「大躍進」破綻の責任をめぐって権力闘争が展開され、1966年からは文化大革命が始まり、政治的混乱はさらに深まっていった。こうした内外の危機を抱えていた中華人民共和国と、ベトナム戦争の泥沼化に苦しんでいたアメリカの思惑が交錯し、1972年アメリカの大統領が訪中して毛沢東と会談し、年正式に米中の国交が正常化された。日本も1972年に田中首相が北京を訪問してに調印し、国交正常化をはたしている。

朝鮮戦争後の大韓民国は、休戦直後にアメリカと米韓相互防衛条約を締結し、が反共独裁体制を強化していったが、1960年民主化を求める学生らの

世界史

運動で政権は崩壊し、IV 内閣が誕生した。しかし、この政権も1961年5月の軍部クーデターで崩壊し、主導したV は、63年から民政に移行して大統領に就任した。V 政権は冷戦体制のもとで、反共的独裁体制をとるとともに、65年に日韓基本条約に調印して日本と国交正常化し、ベトナム戦争に派兵して米韓日の連携を強化しながら、1970年代に輸出工業の育成に努め新興工業経済地域(NIES)と呼ばれるようになった。その後、大韓民国では軍人出身大統領が続いたが、民主化運動の高まりを背景に、1992年の大統領選挙で非軍人のVI が当選し、文民政権が組織された。

中ソ対立と米中接近、日米韓の協力体制構築は、朝鮮民主主義人民共和国の政治にも大きな影響を与えずにはおかなかった。中国との関係を重視しながらも、6 を指導思想体系に、独自の社会主義体制を維持していくことになったのである。G 年、大韓民国と朝鮮民主主義人民共和国は国連への同時加盟を果たす。

中国では1971年に毛沢東の後継者とみなされていたVII が失脚し、1976年に毛沢東が死亡すると文化大革命は終了した。1981年にVIII を中心とした新指導部が成立する前後から一連の改革開放政策が実行され、中国はソ連など周辺国との関係改善も図っていった。⁽³⁾ 中国の改革開放政策の方向性にその後も大きな変化はなく、冷戦崩壊後の90年代以降、ASEAN 諸国との関係を正常化していった。⁽⁴⁾ 97年にはイギリスから香港が返還されるとともに、中国の経済成長は他国よりはるかに高いものとなり、東アジア、ひいては世界における中国の存在感は増す一方である。

こうしてみると、アメリカと東アジアとの連関・相互依存関係はさまざまな摩擦をはらみながらも強化されてきているように見える。果たして東アジアにおいて冷戦は終焉を迎え、植民地支配からの脱却をめぐる課題は解消されたのであろうか。残念ながら、現在も東アジアの国際関係は多くの解消し得ない緊張と課題に満ちている。

問1 空欄 ～ にもっとも適した語を以下の語群から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | | |
|-----------|------------|------------|
| a 衛正斥邪思想 | b カラハン宣言 | c 金日成 |
| d 警察予備隊 | e 自衛隊 | f 主体思想 |
| g 除教安民 | h 新民主主義 | i 双十協定 |
| j 大韓帝国 | k 大韓民国臨時政府 | l 塘沽停戦協定 |
| m 朝鮮人民共和国 | n 日中共同声明 | o 日中平和友好条約 |
| p 八・一宣言 | q 保安隊 | r 李承晩 |

問2 空欄 ～ にもっとも適した数字を以下の選択肢から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | | | | |
|--------|--------|--------|--------|--------|
| a 1941 | b 1943 | c 1945 | d 1946 | e 1948 |
| f 1951 | g 1952 | h 1953 | i 1954 | j 1955 |
| k 1956 | l 1962 | m 1965 | n 1968 | o 1977 |
| p 1979 | q 1981 | r 1988 | s 1991 | t 1994 |

問3 空欄 ～ にもっとも適した語を以下の語群から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | | |
|--------|---------|-------|
| a インド | b カーター | c 海南島 |
| d 華国鋒 | e 金泳三 | f 金九 |
| g 金日成 | h ジョンソン | i 全斗煥 |
| j 孫秉熙 | k 趙紫陽 | l 張勉 |
| m 長興島 | n 珍宝島 | o 鄧小平 |
| p ニクソン | q ベトナム | r 朴正熙 |
| s モンゴル | t 李承晩 | u 劉少奇 |
| v 林彪 | w 盧泰愚 | |

世界史

問4 下線部(1)に関連した次のア～エの出来事のうち、蔣介石死去(1975年)後のものではないものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。すべて蔣介石死去後の出来事である場合はオを選べ。

ア アメリカと中華民国との間で結ばれていた米華相互防衛条約が失効した。

イ 国連総会において中華人民共和国の中国代表権が決議され、台湾の中華民国は代表権を失った。

ウ 中華人民共和国と韓国が国交を樹立したため、韓国は台湾との国交を断絶した。

エ 台湾で1949年以來の戒嚴令が解除された。

問5 下線部(2)に関して、近年の朝鮮半島をめぐる状況について書かれた次の文中の空欄 ～ にもっとも適した語を解答欄に記入せよ。なお、 と は人名である。人名表記は漢字でも片仮名でもよい。

1992年の大統領選挙以降、大韓民国では非軍人大統領による文民政治が定着し、98年には民主化運動を進めてきた が大統領に就任し、その次の盧武鉉大統領(在任2003～08)の時期も含め、朝鮮民主主義人民共和国との南北融和の機運が高まった。そして、2000年には大韓民国の と朝鮮民主主義人民共和国の との間で南北首脳会談が実現したが、このような朝鮮民主主義人民共和国に対する、開放に向かわせるような宥和政策を、イソップのある寓話になぞらえて 政策という。

問6 下線部(3)に関して、次のア～エのうち、この時期の中国の改革開放政策の説明として間違っているものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。
すべて正しい場合にはオを選べ。

- ア 人民公社が解体され、農村に農家ごとの生産責任制が実施された。
- イ 国営企業の独立採算化が図られた。
- ウ 外国資本・技術導入をすすめるために経済特区を設置した。
- エ 農業・工業・科学技術・国防の四分野での「四つの現代化」を目標とした。

問7 下線部(4)と同時期の出来事として、中国へのマカオ返還(1999年12月)がある。次のア～エのうち、中国への返還まで、マカオを支配していた国を一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア イギリス
- イ オランダ
- ウ フランス
- エ ポルトガル